



国道122号の大根村交差点の東側に琵琶橋があります。昔は西北にあったとされる笹の群生地。現在は、住宅が建っています

〈第七十回〉

若い人たちに語り継ぎたい、次の世代に残しておきたい。貴重な話をお届けします。

## あすへひとこと

いつの時代までも残したい

### 邑楽町の昔ばなし

#### 大根村と琵琶首由来

国道122号と県道赤岩足利線の交差点に架かる歩道橋に「大根村」という標示がありました。『だいこむら』と読ませます。ここは邑楽町大字中野字大根村です。

通りががりの人は、誰でも村名と間違えそうですが、実は小字の地名です。明治の初めまでは中野村の「大工村前」と呼んでいましたが、字名の変更があって新しく「大根村」になったといえます。「大工村前」があるなら「大工村後」があってもいいだろうと思います。それがありません。「大工村後」は文字どおり「大工村前」の東北に接した地域でした。

この高台に毘沙門様が祭られていたのでこれにちなんで、新字名を決めたとき「大工村後」は「毘沙門」と改められました。

その東、藤川用水路が国道122号をよぎる所に架かる橋の名を琵琶橋といます。ここら辺りは新字名を決めたとき、昔からの「琵琶首」という地名をそのまま、

中野の

字名にしました。

昔は、この辺りでも橋の西北付近一帯は笹の群生地、人間が中に入ると分かんなくなってしまうほどだったそうです。そんな所から琵琶首の笹株という場所名で呼ばれてきました。

古老の話では、昔国取合戦があった時、あちこちで戦って倒れたたくさんの方の首が切り取られて、この笹株の中に埋められたといわれます。

琵琶首という地名の起こりは定かではありませんが、この辺りの住人が、亡くなった多くの者の霊が、琵琶歌のうなるような恨めしそうな調べを思わせたところから、誰言うともなく、そう呼ぶようになったのだらうと言う人もあります。

ところで大根村の地名についてはこんな話が伝わっています。大昔のことですが石打村と藤川村の境に岩崎村という八幡太郎義家の三男、足利義国の領地がありました。そこに住んでいた久作という人が丹精して作った自慢の大根を献上したところ、義国はたいへん喜んで久作の住んでいた岩崎村を大根村と名付けた、ということです。



【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会  
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より

#### ひとりごと From editors

▶週に1~2回ほど、中央公民館の建設風景を写真に収めている広報JOY担当のKです。何も無い更地のときから半年、杭が打たれ、土が掘られ、コンクリートが入られ、今は2階部分が建設されている状態です。  
▶雪の日も雨の日もかんかん照りの日も、黙々と作業をしている職人さんたち。写真を撮りながらいつも感謝の気持ちとエールを送っています。同時に、町の発展と町民の皆さんに満足してもらうため、〇〇〇課は身を削って中央公民館に関するさまざまな取り組みを行っています。▶たくさんの人たちの思いと尽力で造られていく中央公民館。今までに撮った写真がお披露目されたときには、完成までに関わった人たちにも、思いを馳せて見ていただけたらと思います。(久保田)



曇天  
(中央公園)



Photo 広報担当者



UD FONT  
by MORISAWA

この広報紙は、見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この広報紙は、自然保護のため植物油インキを使用しています。

広報おうら

ORA TOWN Public Relations

平成29年7月号 No.610

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692(住所書記入不要)

☎0276-88-5511(代表)

☎0276-47-5007(企画課直通)

☎0276-89-0136

☒http://www.town.ora.gunma.jp  
✉kohoo@swan.town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご利用ください。

携帯用URL http://www.town.ora.gunma.jp/k

